

The Japan Dickens Fellowship

NEWSLETTER Fall 2006

Department of English Literature
Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University
17-24 Kawauchi, Aoba-ku, Sendai 980-8576
Tel & Fax +81(0)22-795-5961(Department Office)
E-mail : hara_ei@sal.tohoku.ac.jp
http://wwwsoc.nii.ac.jp/dickens/



2006年11月10日

秋季総会報告



「重役会議みたい」(?)という声もあった総会風景

2006年度の秋季総会は10月7日(土)、仙台の東北大学にて開催されました。台風並みに発達した巨大低気圧の接近で前日から嵐となり、当日も午前中は在来線が軒並み運休になるなどして、とくに遠方からの会員の足に影響しました。それでも40名を越える参加者があり、例年より少なめでしたが、充実した内容でした。会場は、旧仙台城(通称青葉城)二の丸跡の東北大学川内南キャンパス。文科系総合棟11階の会議室からは仙台平野と太平洋が遠望できます。嵐も午前中にはおさまリ、すばらしい眺望となりました。

○ 報告事項

- (1) 中村財務理事からチャールズ・ディケンズ博物館の裏庭改修事業への寄付について、次の通り報告がありました。

◎ チャールズ・ディケンズ博物館裏庭改修事業のための寄付金会計報告

寄付金総額 = 430,000円 (寄付者 = 59名)

430,000円 (寄付金総額) - 429,520円 (実際の寄付に伴う支払総額) = +480円

※ 備考: 残余分の480円は、ディケンズ・フェロウシップ日本支部の会計に還元するものとする。

なお、原支部長がアムステルダムでの国際大会終了後にロンドンのチャールズ・ディケンズ博物館を訪問しましたが、裏庭の整備は完了しており、とても快適な空間になっていました。支部会員の皆様もロンドンに行かれた際にはぜひ訪問してみてください。

- (2) 『ディケンズ鑑賞大事典』(仮題)は最終校正段階に入っており、これから学生アルバイトを使って索引の作成作業に入る予定であることが、原支部長から報告されました。



ディケンズ博物館(Charles Dickens Museum, 48 Doughty Street)の裏庭 2006年8月1日

○ 審議事項

1 2005年度決算について

中村隆財務理事から次の通り報告がありました。これについて植木研介監事から適正であるとの監査報告がなされ、審議の結果、承認されました。

ディケンズ・フェロウシップ日本支部
2006年度会計報告(2005年10月1日～2006年9月30日)
収入の部

収入名目	金額	備考
前年度繰越金	3,802,361円	
会費	948,000円	(155人×6,000円+18,000円) ¹
預金利子	145円	
ディケンズ博物館寄付金残余分の繰り越し	480円	430,000円-429,520円=480円
合計(A)	4,750,986円	

注¹ = 3名が昨年度未納の会費を含めての振込(6,000円×3=18,000円)

支出の部

支出名目	金額	備考
ロンドン本部へ	366,008円	359,601円(<i>The Dickensian</i> 代) +6,407円(affiliation fee)
年報印刷費(28号)	352,800円	
講師謝礼(スレイター氏)	50,000円	
講師謝礼(ウィリアムズ氏)	99,999円 +6,450円	渡航費用援助含む 山口ホテル代
郵送通信費(振込手数料含む)	109,350円	
雑費	1,580円	ビデオテープ代(ヴァーチャルコンファレンス)
合計(B)	986,187円	

◎収支決算(次年度への繰越金): 合計(A) - 合計(B) = 3,764,799円

2 大会・総会開催費用の支出について

教室借用料・アルバイト代などについて実費を支出することが承認されました。

3 来年度の大会・総会開催場所について

支部長から、来年度の春季大会は関東地区で、秋季総会は関西地区で開催することが予定されて

いるとの報告がありました。

4 特別講演招待講師について

原支部長から、外国から招聘する講師については、原則として、予算に余裕がある場合や日本支部以外の経費で来日する場合に限りたいとの提案があり、承認されました。

研究発表

今回の研究発表は、いずれも大学院生の若い方々によるものでしたが、いかにも若手研究者らしい意欲と斬新な見方が示され、たいへん聞き応えのあるものでした。お二人の今後の活躍が大いに期待されます。

司会 田中孝信 (大阪市立大学)

*Oliver Twist*における「眠り」について

渡部智也 (京都大学・院)

渡部智也氏の発表は、*Oliver Twist*における「眠り」の扱い方について、主人公オリヴァー、サイクス、フェイギンという三名の主要登場人物の「眠り」を中心に論じたものでした。ディケンズはこの作品の中で一貫して、「眠りには人を生かす力がある」という主張を行っているということです。センスの良さと洞察の深さの感じられる刺激的な発表でした。

『二都物語』論

—カートンの自己犠牲にみる自意識の働き—

大森幸亨 (甲南大学・院)

大森幸亨氏の発表は、『二都物語』における主人公シドニー・カートンの自己犠牲の根源が彼の強い自意識にあることを論じたものでした。彼の自己犠牲はロマンスにおける究極の愛情表現であると同時に、現世の苦しみからの解放と精神的安定を求める行為と行うことができる、と主張されました。カートンの自己犠牲の心理的背景を精緻に解き明かしたもので、抜群の分析力によって見事に説得力のある内容でした。

特別講演

司会 原英一 (東北大学)

「ディケンズの素人演劇活動」

西條隆雄 (甲南大学教授・前日本支部長)

今回の特別講演は前日本支部長の西條隆雄氏に行っていただきました。テーマはディケンズの素人演劇活動。ディケンズなら誰でもよく知っているはずのことですが、実はその実際の内容についてはほとんど知らないというのが真実でしょう。どのような脚本により、どのような形で興業が行われたのか、西條氏は持ち前の情熱と根気で上演脚本を丹念に収集し、ディケンズの素人演劇活動の実際を詳細に語っていただきました。緻密なリサーチに裏づけられたお話しはさまざまな示唆に富み、私たちに新たな観点でディケンズの創作活動全体を考える可能性を示してくれました。

懇親会

総会終了後、マイクロバスで会場の勝山館（しょうざんかん）へむかいました。ここは仙台の財閥である伊澤家の本家があったところで、今では洒落た宴会場・レストランになっています。ご都合で出席のできなかった方を除き、30数名が参加し、いつものように楽しい時間を過ごしました。二次会は仙台の繁華街、国分町へ地下鉄で移動し、イギリス風パブ・レストランで行われましたが、こちらにも総勢20名が参加、ますます盛り上がりました。

訃 報
村山 敏勝 氏

皆様にたいへん辛いお知らせをしなければなりません。ディケンズ・フェロウシップ日本支部理事で成蹊大学助教授の村山敏勝氏が去る 10 月 11 日、肺血栓のため、急逝されました。ご承知のように、村山氏は各方面で大変にご活躍されており、日本支部へも多大なご貢献をいただいております。そのために過労がたたったのでしょうか、まだ 38 歳という若さで帰らぬ人となりました。日本支部はもちろんのこと、日本の英文学界全体の未来を担う傑出した人材をこのように突然に失ったことは、まさに痛恨の極みです。今はただ村山氏のご冥福を心から祈る他はありません。

『年報』第29号が完成しましたので、お届けします。

今回から会員以外の各研究機関等にも寄贈します。そのため、会員名簿は掲載しません。最新の名簿はウェブ上で確認することができます。

会費納入のお願い

郵便振替用紙を同封しましたので、新年度会費6,000円をご納入ください。会費が納入されませんと、*The Dickensian*をお送りできない場合がございます。ご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

The Dickensian 最新号の発送遅れについて

ロンドン本部から日本支部宛に発送された*The Dickensian*の最新号のうち100部が、配送途中で紛失しました。そのため、本部で刷り直し再送してもらいましたので、皆様のお手元に届くのが遅れます。何卒ご了解ください。

2007年度春季大会研究発表募集

2007年度春季大会の開催場所はまだ確定していませんが、関東地区（東京）で開催される予定です。詳細は決まり次第メーリング・リスト、ウェブサイト等でお知らせいたします。

研究発表を募集しますので、ご希望の方は、下記要領でふるってご応募ください。

- 研究発表の内容要旨を 400 字程度にまとめたものを、2007年2月末日までに、下記宛電子メールでお送りください。

hara_ei@sal.tohoku.ac.jp

※ 電子メールが利用できない方は事務局宛郵送でかまいません。

- 応募者多数の場合には、やむを得ずお断りする場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

ディケンズ・フェロウシップ日本支部事務局

〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1 東北大学大学院文学研究科 英文学研究室内

電子メール：hara_ei@sal.tohoku.ac.jp

電話・ファクス：022-795-5961（英文学研究室、藤田真知子助手） 022-795-5959（原支部長直通）